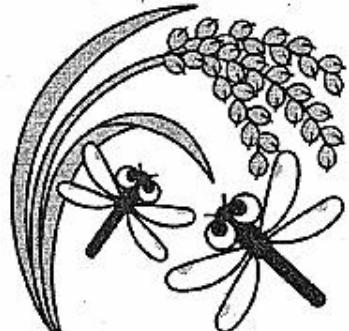


平成19年度 新方公民館主催事業

# 郷 土 文

～越谷周辺の地域特性からみた産業と文化の発達について～



第1回【農業】資料集

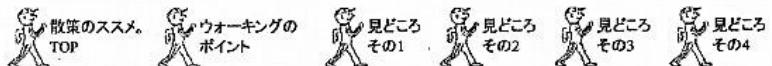
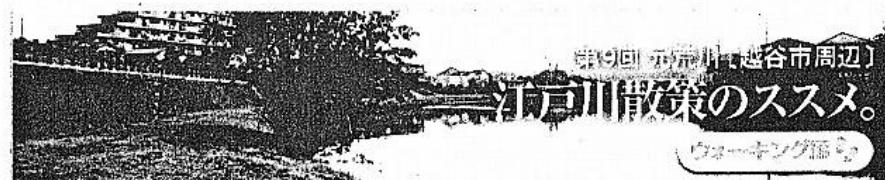
**E-na** 江戸川をまるごと 見る・知る・楽しむ。 Google サイト内検索 [検索]

▲ 脚部のTOP E-na 探検隊が行く! 江戸川散策のススメ 江戸川を守り育むひとびと E-naコミュニケーション NEWS アンケート

今月の特集 今月の特集 今月の特集 今月の特集 今月の特集 今月の特集

ホーム > 江戸川散策のススメ > エドガワ人養成講座

毎月17日(土曜)に発行しています。  
2008年1月号



## 散策でもっと 知りたい江戸川のコト。 エドガワ人養成講座

越谷に残る鶴鳴のルーツ

これを読めば  
今まで立派な  
エドガワ人!

越谷市大林にある「宮内庁埼玉鶴鳴」は、広大な緑地地帯が広がっており、現在では越谷市にとっての貴重な地域財産になっています。江戸時代からの伝統が受け継がれているというそのルーツについて、NPO法人越谷市郷土研究会の常任顧問・高峰力さんに話をうかがいました。

### 家康が定着させた越谷の鶴鳴

鶴鳴のルーツは日本の第16代天皇である仁徳天皇の時代から行われており、その頃からすでに鶴鳴の専門職がいて、捕った鶴はお祭りや祭事に使われていたそうです。

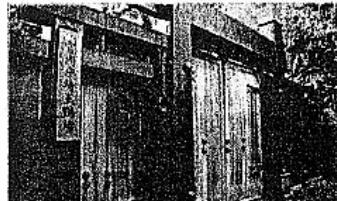
「やがて武家時代になると、武士による鶴鳴が行われるようになり、勢子(せこ)が鶴を追い、羽ばたいたところを鷹が捕まえるといった分業制になっていましたのです。鷹を使いこなす鷹匠(たかじょう)はこの頃からいたようです」(高峰さん)

その鶴鳴が越谷で定着したのは、徳川家康が民情視察のために越谷を訪れた際に鷹狩りを始めてからでした。

「越谷の地にはもともと野鳥がたくさん生息しており、それを気に入った家康は自らが造った越ヶ谷御殿に訪れるたび、鷹を使って鶴鳴を行っていました。やがて越谷の周辺では鶴を保護し、一般的の獣も禁止されることになりました」

越ヶ谷御殿は明暦の大火(1657年)によって消失しますが、鶴鳴の伝統はそれ以降も続きます。明治時代に入ると、越谷の鶴鳴ができるエリアは宮内庁の所管となり、「江戸川筋御鶴場」として、江戸川から元荒川までのエリアを禁獵区としたのです。

「鳥獣を保護したことで、周辺の農家の作物被害がひどくなったりです。鳥が来てもうそう直に払うことができませんからね。その後、禁獵区を狭めたりするなどの対策がとられましたが被害は拡大する一方だったこと、そして、それまで鶴場として使われていた浜離宮が、都市化の影響で野鳥が集まらなくなっていたこともあり、明治41年(1908年)に、新たな移転先として越谷に鶴場ができるようになりました。もともとは湿地帯で鶴が豊富なこと、東武線沿線、川と国道が交わるという交通の便の良さも、その理由でしょう」



宮内庁埼玉鶴鳴の入り口。内部には約10ヘクタールの広大な緑地が広がっている



さるイベントで鷹匠体験中の高峰さん。「このときは鹿の眼光が鋭すぎて、目隠しをしてもらいました(笑)」

### 越谷の歴史とともに歩んだ鶴の文化

こうしてできた鴨場では、狩猟シーズンである11月中旬から2月中旬にかけて、皇族や海外の来賓を接待し、レクリエーションとしての鴨猟が行われています。

「アヒルを使って鴨をおびき寄せ、所定の場所まできたら音を立てて罠かせてから飛び立ったところを、さで網という大きな網で捕獲するんです。捕まえた鴨はキャッチ&リリースで、その後逃がしていましたね」

越谷市内には鴨料理を振舞う店が多く、以前は御馴染の調理法を用いた鴨料理屋もあり、合鴨の料理など鉄板を使った伝統の鴨料理が人気を呼んでいました。

「鴨肉をそのまま焼いて食べると、土の臭みが残ってしまいます。ねぎと一緒に食べるとその臭みが消えるんです。昔の武士たちは農具の鍔(つば)の上に鴨肉とねぎを乗せ、焼いて食べたそうです。それがすき焼きのルーツになっていると言われていますが、それだけ野趣溢れる食べ物だったんですね」

今では越谷市の名物にもなっている鴨料理。毎年秋から冬にかけて行われる「こしがや産業フェスタ」では、一昨年から直径2メートルの大鍋でつくる鴨ねぎ鍋を振る舞っているそうです。

「鴨ねぎ鍋は一昨年から一杯100円で始めたのですが、思いのほか大好評で、今年もあっという間に完売てしまいました。これから越谷の名物になっていくかもしれませんね」

越谷の歴史とともに歩んできた「宮内庁埼玉鴨場」は、今となっては越谷市を象徴すべき場所ともいえるかもしれません。

「現在、鴨猟が行われているのはここだけ。豊かな自然もあるし、この伝統を残していただきたいですね」



こしがや産業フェスタでのひとコマ。「地場産の鴨肉とねぎが豊富に入った鴨鍋は本当に絶品です」



-----  
E-na メール バックナンバー お問い合わせ このサイトについて

►国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所  
COPYRIGHT © 2007 EDOGAWA RIVER OFFICE. ALL RIGHTS RESERVED.

## ◆ 越ヶ谷音頭

作詞 野口 紅堂

由羽

1 草加越ヶ谷千住のさきよ トコサイ

東武電車でひと走り ひと走り

ヘヤシお前と私は御嶽の鴨場

そつと目と目で合圖する

トコサイ

2 花のさきがけ越ヶ谷梅よ トコサイ

天の浮橋影 映る 影 映る

ハヤシお前と私は太郎兵エの餅よ

搗いて搗かれて味が出る

トコサイ

3 越ヶ谷外れて埼玉鴨場 トコサイ

池の水島さわくとさわくと

ハヤシお前と私は御嶽の鴨場

そつと目と目で合圖する

トコサイ

4 越ヶ谷名物數ある中に トコサイ

米ト糯米 繩 蕤 繩むしろ

ハヤシお前と私は太郎兵エの餅よ

搗いて搗かれて味が出る

トコサイ

5 可愛いお酌で川魚料理 トコサイ

川の眺めや清々し 清々し

ハヤシお前と私は御嶽の鴨場

そつと目と目で合圖する

トコサイ

6 蒲生越ヶ谷田植の名所 トコサイ

明治帝の行幸跡 行幸跡

ハヤシお前と私は太郎兵エの餅よ

搗いて搗かれて味が出る

トコサイ

7 蒲生越ヶ谷の穂波は越ヶ谷田植 トコサイ

東筑波根西に不二 西に不二

ハヤシお前と私は御嶽の鴨場

そつと目と目で合圖する

トコサイ

8 越ヶ谷驛から半道西へ トコサイ

糸で名高い出羽の里 出羽の里

ハヤシお前と私は太郎兵エの餅よ

搗いて搗かれて味が出る

トコサイ

5 音に聞えた大相模不動 トコサイ

古き由緒は御座の松 御座の松

ハヤシお前と私は御嶽の鴨場

そつと目と目で合圖する

トコサイ

6 桃の越ヶ谷住みよ、ところ トコサイ

つき荒川泳ぐ鯉 泳ぐ鯉

ハヤシお前と私は御嶽の鴨場

そつと目と目で合圖する

トコサイ

7 桃の越ヶ谷住みよ、ところ トコサイ

つき荒川泳ぐ鯉 泳ぐ鯉

ハヤシお前と私は御嶽の鴨場

そつと目と目で合圖する

トコサイ

8 鈎りをするなら越ヶ谷ちかく トコサイ

お出で待らます鰐ミ鮒 鮒ミ鮒

ハヤシお前と私は太郎兵エの餅よ

搗いて搗かれて味が出る

トコサイ

1 春の遊びは越ヶ谷來ませ トコサイ

藤で名高い久伊豆へ 久伊豆へ

ハヤシお前と私は御嶽の鴨場

そつと目と目で合圖する

トコサイ

2 夏の遊びは越ヶ谷來ませ トコサイ

月の荒川夕涼み 夕涼み

ハヤシお前と私は太郎兵エの餅よ

搗いて搗かれて味が出る

トコサイ

3 秋の遊びは越ヶ谷來ませ トコサイ

萩の花見に至登山 至登山

ハヤシお前と私は御嶽の鴨場

そつと目と目で合圖する

トコサイ

4 冬の遊びは越ヶ谷來ませ トコサイ

何時も花咲く試験場 試験場

ハヤシお前と私は太郎兵エの餅よ

搗いて搗かれて味が出る

トコサイ

## 1. 越谷地方の自然食材

クワイ (にがい、甘い)	タニシ	スズメ (寒雀)	シマヘビ
ハス (実とレンコン)	カラスガイ	キジバト	赤ガエル
七草	シジミ	カモ	
セリ	ドジョウ		
ウド	エビ (手長カワエビ)		
フキ	川カニ		
ヨモギ (草餅)			
ミョウガ			
ジネンジョ			

## 2. 餅搗目的パターン

〔横須賀市大和田、浜浅家、元治2年(1865年)の例 (田畠3町8反4畝の地下)〕

① 家で用いる 29回	② 他家に与えるもの 146回	③ 他家からいただく 35回
目的 的 祝事 祭祀	贈答 贈主の意識 礼	②の裏返し 答礼
家内消費	相手は下級	特に求めない

4

## 3. 年中行事と餅搗き

〔三郷市戸ヶ崎、I家をベースに埼葛東南部地域〕

12月 30日	正月用餅
1月 三ヶ日	雑煮
1月 7日	七草
1月 11日	蔵開き
1月 14日	マユダマ用餅搗き
1月 15日	小正月
3月 3日	お雛様用草餅
4月 8日	お釈迦様用草餅
4月 彼岸	彼岸用ボタモチ
5月 5日	節供カシワ餅
5月	各戸 田植え終了日に サナブリアンコロ餅
6月 30日	浅間神社 モチ、小麦マンジュウ
7月 1日	天王様、小麦マンジュウ
7月 15日	お盆 アンコロ餅、ウドン
~15日	
9月 15日	十五夜 ウルチ米餅ダンゴ
9月 彼岸	ボタモチ
10月 15日	お日待、新糰米
11月 七五三	七五三祝赤飯
11月 下旬	唐臼ぶき、ボタモチ

越ヶ谷櫻の評判

二、太郎兵衛糰の由来と改良

品評会・共進会で上位入賞の太郎兵衛檻

四、因

五、雖會之呴濡念・共進

## 六、大相模村の養鶏

七、農芸競技会の始

八、太郎兵衛糸の盛衰

付太郎兵衛檻関係年表

古研究会資料

越谷特産米「太郎兵衛糯」

資料より抜粋

一、  
越後谷櫻の評判

明治三十年頃の越谷穀米の評判について「水稻穀は埼玉県越谷にて良種を産し、太郎兵衛穀、撰太郎穀を最も有名とし、葉子屋の有名なる者は必ず之を用ふ」とあり、「越谷穀といわれる種類には」のほか細穀、柳穀、白髮穀などがある。」（田口晋吉著「米の經濟」）。そしていすれの種類も東京の米市場では上位にランクされている。

二、太郎兵衛橋の由来と改良

大正十四年十二月出羽村農会がまとめた「太郎兵衛語二関スル調査概要」はそれまで口伝えであった太郎兵衛語に關し、初めて文官化されたもので要約すると次のようである。

（越谷市大間野町）名主会田太郎兵衛なる者が早稲田中から抜穂し増殖したものとされ後世「太郎兵衛穂」と呼ばれるようになつたと伝えられている。ついで元禄年中（一七〇〇年頃）大間野村（越谷市大間野町）の中村某が改良して一層良好なる品種にした。明治二十三年（一八九〇）出羽村中村悦蔵、中村貞次郎等は更に改良して粒大きく茎桿強剛なる品種を作出し「明治太郎兵衛穂」と称した。ついで明治四十三年（一九一〇）出羽村四丁野の大野市五郎は更に改良して「玉穂」を作出した。大正以後は埼玉県農事試験場で品種改良した「太郎兵衛穂埼一號」となり埼玉県獎勵品種として全県下に普及作付されていった。

### 三、品評会・共進会で上位入賞の大郎兵衛

(越谷市史二)

慶応三年四月のパリ万国博（幕府・薩摩藩・佐賀藩出品）、明治六年五月のウイーン万国博（明治政府初参加）に触発された明治政府は「殖産興業」を旗印に第一回内国博覧会を上野公園（寛永寺跡地）で明治十年八月廿一日開催した。

日より一〇二日間開催した。出品者一万六千人、出品点數八万点、入場者四十五万人という未曾有の盛況であった。これを契機に以後各地に於て穀物、蔬果、雑物、家禽、機造、工芸、機械等の品評会・共進会・錦栄会が開催されるようになった。(以下年表参照)

これらのうち明治二十五年四月五日～十五日にかけ柏崎町自助館で開催された南埼玉郡・北葛飾郡・中葛飾郡の三郡連合穀物品評会を次の資料2で概観してみよう。

資料2 明治二十五年四月

南埼玉北中葛飾郡穀物品評会要録報告書

(略)	
出品ノ総数ハ四三三点ニシテ人員三九九人ナリ	大豆 小豆
粳米 三八三点 一一六一人	小麦 大豆 小豆
糯米 四五 四三	（略）
大麦 二五 一二五	（略）
小麦 八 五八	（略）
大豆 五六 五六	（略）
小豆 一六 一六	（略）
而テ其審査ノ結果知事ノ義賞ヲ得タル員数	（略）
一等賞 一等賞 二等賞 三等賞	（略）
粳米 三 六 六八	（略）
糯米 一 二 三三	（略）

義賞明細表 (醸の部)	
一等賞 太郎兵衛	越ヶ谷町
二等賞	篠田次右衛門
三等賞	桃木長貢
出羽村	関根宇一郎
桜井村	新井国太郎
大相模村	関根松次郎
桜井村	渡辺佐十郎
田宮村	小江戸重次郎
武里村	鈴木幸太郎
新和村	田口瑛吉
江面村	奥貫甚内
三輪野江村	戸田善次郎
三笛村	荒川与惣兵衛
三船太郎兵衛 増林村	関根宗輔
三輪野江村	田中彦右衛門
深太郎	坂筈徳蔵
三次郎	高橋義助

三等賞	
玉子醤	江面村 高山伊三郎
比女	武里村 志村寿美吉
八重城	江面村 小林峯吉
玉子穀	八代村 倉持治助
銀世界	新和村 大塚新太郎
細醤	港生村 中村信太郎

(以下略) (八潮市立資料館蔵)

以上穀の部では一、二等とも太郎兵衛醤、三等賞二十一点中十四点が同じ、従って入賞総数二十五点中十七点が太郎兵衛醤である。

種類は別名「越ヶ谷醤」ともいわれる越ヶ谷醤の一種で蒲生村、大相模村の一部でしか作付は行われていなかった。

四、細醤とひ

細醤は別名「御用細醤」ともいわれる越ヶ谷醤の一種で蒲生村、大相模村の一部でしか作付は行われていなかった。

資料3 明治四十二年七月 越ヶ谷醤の由来

現今東京市中にもぐる頃に於ても喧嘩せつゝある越ヶ谷醤が如何なる動機に依り斯くの如き名号を博するに至りしやに付ては世間其由來を知る者稀なり。依て少しく其来歴を述べんに、往古埼玉郡瓦曾模村に中村彦左衛門(前蒲生村長)下日進銀行越ヶ谷支店長中村彦左衛門氏の家なり)といふ者ありしが、徳川幕府より年

々越ヶ谷醤二百俵以上五百俵以下の御用を承はりて首尾能く御用を弁じつゝありしを以て、中村家は百字番刀御免並に若干の御扶持を頂戴し居りて、幕府が大政奉還當時まで繼續しつゝあり。而して越ヶ谷醤と称する同地方附近に於て産出する糯米の総称と成れるが、中村家より徳川幕府に納入したる細醤と称する種類にて、同家独専のものにて(御止め米として他に耕作を許さず)他には決して種子の分与等を許さざるものなれば、現今に至るも細醤の種子は中村家の外作付を為すものなし。且つ該醤は耕作甚だ困難にして収穫の如きも他の種類に比して一反歩優に一俵以上の減收なりと云ふ。去れば幕府御買上げの当時も、他の上穀に比して価格は一斗高の割合を以て計算せしものなりと云ふ。而して該醤米の取扱方に付ては頗る町重のものにて、先づ倉庫を別にし周囲に注連を張り、仙台籠にて社若くは挽れ粒を逕り分くると云ふ。殆ど一粒拾りとも云ふ可き程にて其仕上げを終れば其内一俵を御揚き試めしと称して前送りを為すものなるが、此時は「御吊」の札を真先に押し立てて人夫に荷はせ「下に居るう」の掛け声にて江戸御米蔵に送り付くるものにて、此頃通行の諸大名と越も悉く道を避くるの規定にて其勢ひは實に宏大なるものなりしと。又御米蔵に入れるにも籠の内に更に快絹を張りて特別の藏函を為したるものなりと云ふ。要するに越ヶ谷醤と称するは以上の来歴を有する者にて、中村家より徳川幕府に納入せし以來始めて全国に其名を知らるるに至りしものなり。

(明治42・7・7付「埼玉新報」国立国会図書館蔵)  
中村家は代々瓦曾根村の名主を勤める豪農で明和八年  
受人に指定され稻米を江戸城中御用として納めていた  
ので天明四年(一七八四)一月には其身一代蒂刀苗字末  
代まで許可されている。

## 五、農会と品評会・共進会

明治政府による内国博覧会には全国から出品物が集ま  
り盛況であった。このようないい處は政府の奨励と相俟つ  
てやがて地方単位で開催され、村、郡、県、及びこれら  
の連合体でも行われる一方各地に農会が組織され、やが  
て第一農会・連合農会主催による品評会・共進会が企画  
運営されていくようになった。

### 資料4 明治三十年 南埼玉郡桜井村農会規約

第一条 本会ハ農事ノ改良発達ヲ謀ルヲ以テ目的トス

(略)

第六条 本会ノ会務左ノ如シ

- 一、上級農会ノ報告ヲ会員二周知セシメ及上級農会  
へ報告ヲナスコト

(以下略)

### (八潮市立資料館蔵)

### 資料6 明治二十四年十一月

#### 南埼玉郡越谷町外十三町村連合勧業会規則

第一条 本会ハ農工商業ニ關スル重要事項ノ利害得失

(略)

第二条 本会ハ南埼玉郡越ヶ谷町、大沢町、大相模村、

川柳村、蒲生村、新方村、増林村、出羽村、八幡村、

潮止村、大袋村、萩島村、桜井村、八條村ノ十四ヶ

町村ヲ以テ一区域トス

第三条 本会ハ第一条ノ目的ヲ達セんカ為メ左ノ諸項

ヲ挙行ス

一、談話会

二、品評会

三、詮議会

(以下略)

### (八潮市立資料館蔵)

### 資料8 明治二十一年六月 家禽飼養獎勵の論達

資料7の長野県主催一府十県連合共進会において大相  
模村の鶏が四等賞を獲得しているのでこの経緯を探って  
みる。大相模村の本格的養鶏は明治二十二年の埼玉県知  
事による「論達」および明治二十三年からの西洋鶏の輸  
入以後と考えられる。

- 二、農商品評会ヲ開クコト
- 三、種苗交換及売買媒介スルコト
- 四、虫害駆除ヲ謀ルコト
- 五、肥料ノ共同購入ヲ謀ルコト
- 六、試験場ノ設置及管理ノコト
- 七、農具及土地改良ノコト
- 八、耕耘及栽培改良ノコト
- 九、獸疫及霍乱予防ノ方法ヲ設ケルコト

(以下略)

### (越谷市史 四)

### 資料5 明治三十三年 南埼玉郡農会規則

第一条 本会ハ郡内農業ノ改良進歩ヲ圖ルヲ以テ目  
的トス

(略)

### 第七条 事業

- 一、農業ノ試験講習講話及共進会品評会開設
- 二、町村農会ノ事務ヲ監督
- 三、農業ノ調査統計
- 四、種苗種畜種肥料農具等ノ交接分配
- 五、耕地ノ整理灌漑排水及農家ノ副業
- 六、動植物ノ病虫害駆除予防
- 七、農業ノ保護ニ要スル森林樹苗植栽
- 八、県農会ヘノ報告ト町村農会ヘノ通知

(町 村)	出 品 数	受 賞 等 級 数	品 名	受 賞 者
桜井村	五	四等賞	一大麦	須賀丑蔵
増林村	九	一	中村重太郎	
出羽村	三	四等賞	一 鶏	
大相模村	六	一		
越ヶ谷町	二			
大沢町	一			

### (八潮市立資料館蔵)

資料7 明治四十一年十二月  
長野県主催一府十県連合共進会

(現越谷市域の出品及受賞表)

家禽ハ農家欠クヘカラサル有益ノ副産物ナリト號モ  
従来ノ慣習トシテ之レア飼養セシモノハ多クハ徒ニ時  
辰ヲ知り遺棄ヲ拾ハシメ 或ハ愛玩ノ具トナスニ過キ  
シテ取テ其經濟如何ハ莫テ顧ミサルモノノ如ク 徒  
テ其飼育ノ數モ甚ダ寡ナカリシナリ 然ルニ競近世體

一隻シテ肉食スルモノ新ク多キヲ加ヘ 家禽鷄卵ノ如  
キ大ニ其需要ノ増加スルニ從ヒ之レカ供給額ニ欠乏ヲ  
告ケ 現ニ鷄卵如キハ年々支那ヨリ輸入スル耶數殆  
ト數百万顆ノ巨額ニ達セリ

(略)

思フニ家禽中最モ利益アルモノハ鷄類ナリトス 現  
ニ農家ニ於テハ其ハ彼ノ有害ナル昆虫ノ駆除 彼ノ有  
益ナル鷄糞ノ肥料等均シク之レ農家業上莫大ノ補益ヲ  
ナスモノナレハ是レカ吾殖ヲ國ルハ農家業要ノ事業ト  
イフ可キナリ 然リト雖トモ今之レラ飼養セントスル  
ニ於テモ「其家禽」復或ハ肉用採卵各其種類ノ異ナル  
アリ 「又」或ハ氣候風土各其適否ノ別アリ宣シク之  
レカ選択ヲナサズハ拳ケテ其利益ヲ見サル可シ

(略)

明治廿一年六月廿六日

埼玉県知事 吉田清英

(埼玉県立文書館蔵)

資料9 明治四十年十一月

大相模村養鷄ニ關スル調査

(略)

明治廿三年鷄種「淡色フーラマ」「褐色レクホーン」「黒色スパニシ」等ノ輸入セラレショヨリ 中村重太郎

は場外に陳列する有様なり。同日午後までに観覧員数  
五八〇人に達したり。

(明治四十一年一月一日付関東新聞)

七、 農芸競技の始まり

戦前まで統いていた村単位の品評会・共進会の呼び物  
の一つに綱縄(ない)競技が等あつた。

資料11 明治四十二年十二月

南埼玉郡農会主催第六回重要物産品評会

(通知書) 品発第一三〇号

来ル二十五日品評会優賞授与式當日別紙方法ヲ以テ農  
芸競技会開催致候條來ル十二月十五日迄二競技員左記  
ノ通り選出御報告相度及照会候也

明治四十二年十二月三日

第六回重要物産品評会 記

〇〇 長殿

八、 太郎兵衛橋の盛衰

一、 綱縄競技員 一名以上  
一、 俵競技員 一名以上  
一、 運搬競技員 一名以上

太郎兵衛橋の全盛期は明治期から大正期までであった。  
昭和に入ると衰退し、戦時色が濃くなると質から量へと  
転換し収穫の少ない太郎兵衛橋の作付は激減していった。

ハ之レカ種卵ヲ購入シ飼養繁殖スルト共ニ在来ノ地鷄  
交趾ノ類ト交尾セシメ雑種ヲ作出シタルニ 產卵額ル  
多ク殊ニ性質ハ温順ニシテ相處ニ適当セルヲ以テ村民  
中是等種類ヲ増殖ス

(略)

一利一害ハ數ノ免レサル处ニシテ之レカ為忽チ流行熱  
愛シ各戸放飼ノ結果耕作物ヲ害シ収支相償ハストノ説  
ヲ唱導セラレ 热度ノ冷却ト共ニ斯ノ有益ナル事業ハ  
漸次衰退シ明治三十年頃ニ至リテハ殆ント飼養スルモ  
ノ種ナルニ至レリ 然レトモ創始者ハ之レヲ意ニ介ス  
ルニ足ラストシ益々改良発達ヲ圖リシニ人目シテ狂ナ  
リトセリ

同三十五年ニ至リ真ノ熱心家斎藤大助、鈴木熊次郎、  
浅見唯次、関根松次郎等ノ同志ヲ得相共ニ養鷄ノ利益  
ヲ唱ヒ番殖ヲ奨励セシ為メ、爾來飼養家ヲ増加シ毎戸  
飼育セサル者ナキニ至レリ

(以下略)

(埼玉県立文書館蔵「県報第一六五四号」)

資料10 明治四十年十一月

南埼玉農会重要物産品評会四日目 (於久喜小学校)

(略)

第八号館家禽は本日に至り尚出品増越し來り為ニ陳列  
場狭隘を感じたるに彼の熱心なる大相模方面の愛禽家

(一) 綱縄競技 一定量ノ糞ヲ用意シ号令ト共ニ開始  
シ其ノ作業ノ最モ早ク且ツ優良ナル

者 二回実施

(II) 俵競技 大麦(五斗入)米(四斗入)の俵  
袋ヲ行フ其ノ作業ノ最モ早ク優良ナル者

(III) 運搬競技 競技ハ四回 第一回第二回ハ大俵袋、  
第三回第四回は米俵ヲ一定ノ場所ヨリ肩担シテ百米突端距離ニ樹タル  
旗ヲ抜キ取り元ノ場所ニ復帰スル

(略)  
賞品ハ左記ノ如シ

一等賞 箱一  
二等賞 箱一  
三等賞 箱一  
四等賞 箱一

(八潮市立資料館蔵)



明治24年11月

明治25年4月

越ヶ谷町外十三町村連合勧業会発足  
南埼玉北中葛飾三郡穀物品評会柏壁町自助館で開催太郎兵衛橋は上位独占

一府六県連合共進会、宇都宮で開催

明治26年4月

明治28年4月  
第四回国博覧会京都同時に公園で開催、入場者一二三万人 木綿の部へ  
荻島村堀井基五右衛門、越ヶ谷町小泉庄次郎、小泉市右衛門、大沢町疋野清太郎ら出品

明治30年

接井村農会発足

明治30年

埼玉県下二三六町村に農会成立(三分の二町村)

明治30年頃

大相模村養鶏盛んとなる

明治31年2月7日

南埼玉郡農会設立

明治33年3月7日

農業組合法(信用・販売・購買・生産)発布

明治34年11月7日

明治34年11月7日

明治35年3月7日

明治35年3月7日

明治41年12月

長野県主催一府十県連合共進会长野市で開催、大相模村中村重太郎第四等賞

明治42年7月

「越ヶ谷郷の由来」埼玉新報に掲載  
埼玉県農会主催第一回家畜品評会及第一回園芸品評会開催

明治42年11月5日

大正9年10月15日

明治42年12月23日

皇后陛下大官町行啓の阿太郎兵衛橋

大正11年

大正11年

大正12年頃

大正12年頃

大正14年12月8日

皇孫殿下御誕生日祝餅奉呈額上

大正14年12月

出羽村農会「太郎兵衛橋二閑スル調査概要」報告

明治43年

昭和3年

出羽村大字四丁野考農大野市五郎太郎兵衛橋より「玉郷」を作出

大正元年11月15日 陸軍特別大演習川越行在所に太郎兵衛橋

衛橋販納

昭和18年

農業団体法施行(農業会)

大正4年11月10日

埼玉県水稻品種別生産米検査係設置の部で太郎兵衛橋は全県下の24%を占め第一位

明治33年10月14日

埼玉県農友会結成

明治33年9月26日

農会令公布

明治23年3月25日 南埼玉郡農会主催第一回重要農産物共進会岩槻町で開催

明治34年11月24日

南埼玉郡農会第一回稻作模範作共進会表揚授与式岩槻町郡役所で挙行

明治36年3月7日

明治40年11月

第五回国博覧会大阪天王寺公園で開催入場者四三五万人。接井村から大豆を中村四万吉、中村定八郎、山口喜三郎、小島忠太郎、中村周太郎、須賀茂忠次、米は深野弘一が出品

明治40年12月24日

南埼玉郡農会主催第四回国重要物産品評会久喜高等小学校で開催、越ヶ谷町山田屋出品瓦斯紅梅好評 大相模村愛萬家多數出品

明治41年2月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治41年11月

「大相模村養鶏に関する調査」

明治42年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治42年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治43年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治43年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治44年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治44年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治45年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治45年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治46年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治46年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治47年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治47年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治48年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治48年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治49年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治49年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治50年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治50年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治51年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治51年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治52年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治52年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治53年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治53年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治54年1月14日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

明治54年12月24日

埼玉県農会主催第一回物産陳列会肥料展覽会岩槻町郡役所で開催

昭和27年11月

越ヶ谷地区農業二十四ヶ村農産物共進会  
在越ヶ谷高等学校で開催

昭和29年11月3日

町内会誌「越ヶ谷町」

昭和31年12月

越ヶ谷町農産物共進会大沢中学校で開  
催、児童生徒展覧会、農業展示会同  
時開催

昭和59年12月15日

広報じこやし「越ヶ谷第一酒類や  
くやや米」掲載

平成5年3月30日

朝日新聞「太郎兵衛もいー組み山地  
く特産米越ヶ谷市品種保護会」掲載

平成5年3月19日

埼玉新聞「太郎兵衛がお野菜」  
掲載

太郎兵衛糞の系統図



明治二五年四月 三郡品評會 於粕壁町

南靖玉北中萬能縣數物品評會要領報告書

一木會ハ「全般製糖ノ收買進歩」企圖スル目的ヲ、以テ者志若櫻木市左衛門内外販賣ノ結合タリ以テ明治廿五年四月五日より十日間市原五郎吉貿易助販二個取引業者ニ供給リテ其會則左ノ如シ  
南端至北中萬局穀物品評會規則

（明治二十五年四月五日）向づ十日同ソシ國會中華ノ議院ニ開

第二條 本會は出品品又製物を南端玉郡北中並郡内に於テ多年産出セラモノニ限ル但シ郡外連出ノモノヲ除キ其に參考品ナシタ出品シ公賣セラムル可シ

内ヨリ各一升ヲ差出スモノトズ

本會ノ木橋第二項ニ開設シハ佐野支ノ鑑物ノ品質ニ就キ于開テ要スル日ノ其月右端ニ開場シ  
第一出品ニ關シ詐僞ノ所爲アリト認定シテ此ノ件ハ出品ヲ拒絶シ其姓名ヲ会場ニ掲示シ貰シ小

第三條 本會より出品スル動物ヘ何品當式ノ如キ申告書及説人ノ連絡シタル出品目録各一通ヲ提出シ  
並開會十五日前迄定シ場所ニ提出ス可シ

卷之三

全  
全  
晚  
源  
藏  
三  
野  
江  
歸  
田  
宇  
之  
吉  
全  
全

金全  
全全  
平全  
棄  
錦  
武  
有  
旱  
村  
林  
風  
以  
又  
原  
山  
街  
門  
全全  
全全  
晚  
源  
新  
舊  
我  
島  
特  
川  
上  
道  
太  
郎

全蜀王集卷之三

卷之三

京兆豐潤牛村漢見傳盛全空高不歐武里村原北正大縣

### 埼玉県内の「太郎兵衛糰」

新編埼玉県史 資料21より

卷之六

卷之三

本県に於て大正十二年水稻品種分布調査を行ひ、更に大

卷之三

本院寄附額及び、大正四年、昭和三年水害品種別生産米  
後輩袋数による貢献用耕品種の栽培状況を記す。好

正續

の申五〇〇町歩以上の作付面積を有する品種名を列記すれば次の如し。

卷之三

の如く。

# 埼玉県 経済連絡新聞 第231号

## 待望の一等米現わる、

### 産米改善指導の実あがる

かつては「武州米」の名をはせた本県稲米は、これをさしては、とかく後退を伴う立場になり、埼玉の米はまことにいふ日本で最も多く育てるとうな現況になつた。それともいままで最後の仕上げ間ににおける乾燥調整に不手際が多かつたわけで、この点の改善とライフケーブルによる通水を點化せることによって「武州米」の名前を呼びもすことが出来る。

#### 一等米かくんとふえる

検査テンボも順調に進む

一方、ことしの耕作状況、毎年の施肥量においては二五三七对比をなす。六月中旬と七月下旬の施肥量がやや影響したが、その後立ちなおれ百六一〇六・九本（元）と草平年を下回つてい

#### 夢よもういちど太郎兵衛穀の復活

播種は太郎兵衛穀と言つても聞いたこともない人が多いだろう。さ、腰の腰で苦しきりの良さ、間に入り出村の大字大間野に住が、戦前の江戸子にとっては、品質の良いことにかけては日本一むし田某に上り沼田に試作を行ななかしい名前として思い出される。太郎兵衛穀は、越谷地方に栽培され、いた在来種に稲穀と呼ばれて見習いを作り増加した。

（その八）  
太郎兵衛穀時代の傑作の田に作られていたのが太郎兵衛穀の原種である。其谷穀は、その名の通り昔の出羽村に引き寄せられ、これが見習いを作り増加した。現在は太郎兵衛穀を中心とする地方の田に作られていた。

（その九）  
太郎兵衛穀時代の傑作の田に作られていたのが太郎兵衛穀の原種である。其谷穀は、その名の通り昔の出羽村に引き寄せられ、これが見習いを作り増加した。現在は太郎兵衛穀を中心とする地方の田に作られていた。

年上り急ソシテ九月三十日現在

七五三・四、年三七四・三七

五三のまつぐぐ

七五三・四、年三七四・三七

に記録している。現在までの成績は次のとおりである。

トド、七五三の検査内容

▽、七五三・一〇・九

○、▽、△、二米一八〇、一三

・九〇、一三、一、四、

三等四四七・五九・四一

一六七、六〇・九九、マ四四

米一四四・一五・一九・八

生活事業研修会  
地域の生活拠点を  
長・事・經済課

発行所 埼玉県農業技術センター  
館 和田高和 担任 本  
電話 049-221-1511  
郵便局 049-221-1511  
郵便局 049-221-1511  
月2回1日 15日発行

売りも  
買ひも  
農協へ



四・三・四・五・六・七・八  
の通り、特許の一部が思  
いが、それが三・九・九と  
自走用車の四四五であり、  
多少成績は下向するもどう  
いるが、それでも貢  
献のおへへの熱は、ちう  
船に乗りこだわるそ  
う。  
後、政府開拓の出回りによ  
り、新設地七五三のつ  
れは、政府開拓地七五三のつ  
れが運営するものであ  
る。その結果、貢  
献が伸びた。

さす  
れども、特許の一部が思  
いが、それが三・九・九と  
自走用車の四四五であり、  
多少成績は下向するもどう  
いるが、それでも貢  
献のおへへの熱は、ちう  
船に乗りこだわるそ  
う。  
後、政府開拓の出回りによ  
り、新設地七五三のつ  
れは、政府開拓地七五三のつ  
れが運営するものであ  
る。その結果、貢  
献が伸びた。

さす  
れども、特許の一部が思  
いが、それが三・九・九と  
自走用車の四四五であり、  
多少成績は下向するもどう  
いるが、それでも貢  
献のおへへの熱は、ちう  
船に乗りこだわるそ  
う。  
後、政府開拓の出回りによ  
り、新設地七五三のつ  
れは、政府開拓地七五三のつ  
れが運営するものであ  
る。その結果、貢  
献が伸びた。

## 太郎兵衛チ絶滅のピンチ

越谷

伝統の灯、ただ一軒に

收量少なむのか敬遠され



首都圈  
さいたま

卷之三十一

收量少ないので敬遠され

又畫之不以故畫

伝統の灯たたかに

卷之三

卷之三

子絶滅のビックリ

通志

卷之三

60



東埼玉

浦和支局(7336)  
浦和市森町4-12-13  
☎048-832-7311  
ファックス824-7952

西埼玉支局(7350)  
川越市仙波町1-8-9  
☎042-25-0008

北埼玉支局(7380)  
熊谷市芦町1-187  
☎0485-21-0011

県内取材網

越 谷 049-62-2744  
登録 048-735-8228  
草 加 049-22-1031  
沢 042-22-2247  
父 049-22-0008  
宮 048-641-0181  
口 048-265-3435  
座 048-478-5071  
HIM29-52-6729

きょうの天気

きょうの降水確率  
6-12時(%)12-18時  
0% 南 部 0%  
0% 北 部 0%  
0% 文化地方 0%

【金原】北日本雨量の風情を後ろに  
◇あず川の原風情を後ろに見ながら  
一瞬南か

きょうの予報

最高 最低 12度 -1度  
風度 最小 25%  
あとの晴

3月4日 (日) 2月12日



御々と並んでいた「太郎兵衛もち」の稻刈り風景。  
「ふるさとのもち米」が、新年度から保存されること  
になった=78年9月、越谷市七左町の秋山さん方  
(市役所提供)

## 作付け2軒だけ

来年度 学童農園で栽培

太郎兵衛もち

出

川

現

在

の

越

谷

市

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

し

の

お

か

The map shows the Shunyi region with several key locations marked: Gaixia (垓下), Julu (巨鹿), Pengcheng (彭城), and Hǔnqíng (渾涇). The 'Four Major Battles' (四大戰) are indicated by shaded areas corresponding to these locations.

東縣

「太郎兵衛もち」保存へ



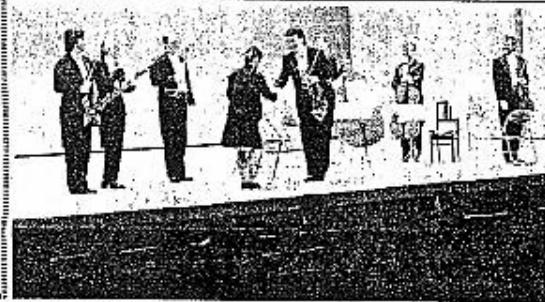
大清國之御文書

## 越谷市所有の農園で生産

95年度予算案に13万円計上

県  
民  
の  
聲

卷之三十一



地元医師会と合意

「うーん、うーん、うーん」と、うなづかれていた。うなづかれていた。うなづかれていた。

から実施へ



卷之三

久喜北陽高生が感激

サンクトペテルブルク・  
フィルハーモニクス管弦楽団演奏会

## (1) 新昌種の販賣率

第1版

〔茨城県〕

販賣品種 輸入年次	新昌種名 %	唐岬 反板 石	比較品種 反板石	大正年次		昭和年次		
				英勧品種 輸入年次	新昌種名 %	販賣率 %	反板石	比較品種 反板石
大正6年 金砂繩	5 20.5	白繩	1.87	昭和10年 白繩コボレ	5	21.6	上総コボレ	2.05
大正7年 金 痕	9 22.9	上総コボレ	2.10	昭和11年 裏林5号	15	22.5	国益炭/野	2.42
大正8年 黒芒麥草	4 2.6	爰國	2.52	昭和12年 太平繩	5 22.0	X朝灰耐橋	2.49	
大正9年 信×愛國	5 2.5	愛國	2.58	昭和13年 中野5号	5 21.0	黒芒麥草	2.56	
大正9年 信・繩/5	17 2.63	上総コボレ	1.72	昭和14年 農林14号	21	3.14	黒芒麥草	2.60
大正10年 愛國/野	12 2.03	爰國	2.14	昭和15年 農林25号	10	2.83	黒芒麥草	2.57
大正10年 信・繩5号	14 2.06	信・繩5号	1.79	昭和16年 農林27号	5 21.4	黒芒麥草	2.59	
大正11年 玉錦	18 2.50	玉錦	2.11	昭和17年 東山5号	12	2.65	黒芒麥草	2.22
大正12年 中生繩/5	5 2.00	中生繩/5	2.69	昭和18年 トネワセ	7 2.71	農林5号	2.65	
大正13年 信・繩5号	12 3.02	信・繩5号	2.70	昭和19年 農林5号	7 2.76	八州千本	2.59	
大正14年 信・繩5号	13 3.00	信・繩5号	2.64	昭和20年 コドモナ	6 2.88	太平繩	2.25	
大正15年 愛國炭/5	10 2.90	爰國	2.64	昭和21年 金角・風	27 3.89	八州千本	2.29	
大正年次における 新昌種の平均	11 2.51	昭和年次における 新昌種の平均	2.23	昭和年次における 新昌種の平均	11 2.11	昭和年次における 新昌種の平均	2.45	

60

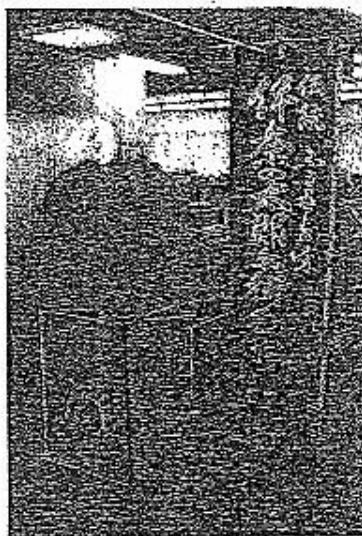
〔茨城県〕

年次(年月日)	英勧品種名 (生竹育苗)	昭和2年		昭和5年		昭和8年		昭和10年	
		販賣率	英勧品種名 (生竹育苗)	販賣率	英勧品種名 (生竹育苗)	販賣率	英勧品種名 (生竹育苗)	販賣率	英勧品種名 (生竹育苗)
北 甲 (4.16)	上総コボレ 太郎兵工繩	早生	農林5号	早生	農林5号	早生	農林5号	早生	農林5号
	..	(51.00)	..	..	..	..	..	..	..
相 馬 (5.22)	早生 爰國炭/5号 黒芒爰國 信×愛國/号	中生	早生 中野5号 爰國炭/5号 黒芒爰國 信×愛國/号	中生	早生 中野5号 爰國炭/5号 黒芒爰國 信×愛國/号	中生	早生 中野5号 爰國炭/5号 黒芒爰國 信×愛國/号	中生	東山5号 農林5号
耶 (5.28)	中生 石錦/5号 中生繩/5号	中生	中生 爰國炭/5号 爰國炭/5号 爰國炭/5号 爰國炭/5号	中生	中生 爰國炭/5号 爰國炭/5号 爰國炭/5号 爰國炭/5号	中生	中生 爰國炭/5号 爰國炭/5号 爰國炭/5号 爰國炭/5号	中生	..
晚 (6.1)	園芸炭/5号 園 蔬	晚生	園芸炭/5号 農林5号	晚生	園芸5号	晚生	園芸5号	晚生	農林25号 農林35号 金南風
	..	(41.01)	..	..	..	(4.71)	..	..	..

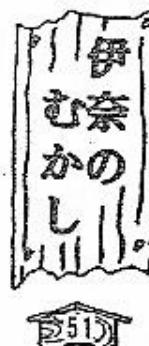
(茨城県下) 水稻の普及と変遷 (茨城県農地課 昭和31年末) 作付割合・全水稻(梗と米穀)の割合

第二回

明治从水年		大正八年		昭和元年		昭和十五年		昭和二十四年		昭和三十一年	
品種名	作付面積	作付割合	品種名	作付面積	作付割合	品種名	作付面積	作付割合	品種名	作付面積	作付割合
太郎兵工穀	22440	5.64	太郎兵工穀	34437	4.14	太郎兵工穀	31726	3.96	太郎兵工穀	29759	3.20
金砂	4550	1.05	二本穂	5161	0.62	白	4958	0.62	太平穂	10752	1.20
白穂	3410	0.79	金砂	4215	0.52	白	3426	0.63	白玉穂	2050	0.72
二本穂	2040	0.47	白穂	4257	0.57	砂	2848	0.36	赤穂	5418	0.60
			白	2539	0.32	二本穂	1959	0.22	千本穂	5171	0.58
			穂	2125	0.27	稻穂	1472	0.16	太郎兵工穀	4334	0.37
			麦	1068	0.13	甲六穂	542	0.06	青穂	2300	0.26
						その他の穀	10959	1.22	八州穂	1266	0.13
									平六穂	1133	0.13
									愛國穂	1077	0.12
									コトヅキ穂	773	0.09
									その他の穀	13187	1.42



## 太郎兵衛搗に ついて



町史編纂室

筑波郡を一直線に南下し、丘陵地の特に尽きんとする所、萬頃の水田、小貝川に沿ふて、東西に連るを見る、此處はもと谷原領と称せし所で、糯米の名産地である、この搗は僕も食べたことがあるが、玄米としての外形は悪いが、糯米の特徴を遺憾なく發揮し居り、非常においしい、多分広き面積に、此種類のみを仕付くる故、花粉の關係上、斯く特徴を發揮したものであろう、

(後略)

今を過ること、九十年前、明治四十三(一九一〇)年六月二十八日付の「いはらき新聞」に、「筑波片々(四)」という紀行文が掲載されている。なかでも、前記した「六、谷原領と太郎兵衛搗」の一節は、この土地の名産物の一つとして数えられる太郎兵衛搗の歴史を振り返る上で、とても貴重な新聞史料である。

穀原領と太郎兵衛搗の関係は、花粉の關係上、斯く特徴を發揮したものであろう、

今を過ること、九十年前、明治四十三(一九一〇)年六月二十八日付の「いはらき新聞」に、「筑波片々(四)」という紀行文が掲載されている。なかでも、前記した「六、谷原領と太郎兵衛搗」の一節は、この土地の名産物の一つとして数えられる太郎兵衛搗の歴史を振り返る上で、とても貴重な新聞史料である。

穀原領と太郎兵衛搗の関係は、花粉の關係上、斯く特徴を發揮したものであろう、

現代の一般家庭において、搗米は、食卓への登場回数こそ減っているとはいって、正月や祝事の際には、欠かせない存在である。伊奈の歴史を語る上で、名産物としてこの地を支えてきた歴史をもつ、太郎兵衛搗に関する話を紹介したいと思う。

そもそも太郎兵衛搗が入つたのは、江戸時代初期、寛永年中(一六二四～一六四三)のことであったという。慶長年間(一五九六～一六一四)に谷原領の開墾に着手した、幕府代官伊奈忠治が、現在の埼玉県越谷辺りに太郎兵衛搗という良品種があるのを聞きつけ、種子の輸入を図り、試作したのがはじまりであつた。太郎兵衛搗は、気候や風土によく合い、良質の糯米として産出され、以後、当地を代表する名産物になっていく。

明治の初年、東京で開催された正米品評会において、優等賞を受けたことで、明治の終りには、毎年年末になると、東京御供餅用や菓子製造の原料として輸送されるようになり、県内でも、糯米原種の華頭の地位を築くまでに成長した。

昭和年間に入ると、財政政策や度重なる不況、恐慌の発生が、これに加えて、代用品種の出現もあり、各市町村に設立された農会は、農業の改良発達を図るべく、各地で共進会や品評会などを開催を指導し、類似品を圧倒するためには、同種のさらなる品質向上を目指している。

太郎兵衛搗宣伝共進会は過敏の暴風雨のため期日を変更して十二月一日より五日間開催と決定、郡鹿島村小学校にて開催と決定、諸般の準備を行つてあるが、出品は南部十ヶ村で既に八百余点に達し、各村の出品者は非常な意気込みである。

また、同地では、旧谷原領の開拓者、伊奈半十郎忠治翁の偉業を祀る伊奈祭が催されており、生産者の生活において、太郎兵衛搗がいかに大きな存在であったかがうかがわれる。

昭和十年代以降、太郎兵衛搗は、火薬原料として輸出されたり、正月を迎えるに当たり在京県人への正月餅米として配達されたりと、その活用範囲を広げ、この地域の名産物としての地位を確立するなかで、正月や祝事に際し、関東を中心とする一般家庭の食卓を彩る役割を担つていつたのである。

現在の伊奈町において、この太郎兵衛搗を生産している農家は五、六軒を教えるのみであるといふ。しかし、この糯米の同じ位置を占めている糯米の重要性を考えると、改めて、その存在に目を向ける必要があるのではないかと切に思われる。読者の皆様にも、これを機に、一度太郎兵衛搗に暖かい眼差しを向けていただけると幸いであります。(さとる)

# 太郎兵衛煎餅 お徳用

茨城県筑波郡伊奈町大字市野深553  
電話 0297(58)0203

名前	米菓
品名	あられ
主な原材料	もち米(白米)、香料(小麦、大豆合計) 砂糖、調味料(アミノ酸等)
内容量	330g
販売者	太郎兵衛記念
販売場所	茨城県筑波郡伊奈町大字市野深553

(有) 太郎兵衛記念商店  
茨城県筑波郡伊奈町大字市野深553-1  
0297-58-0203

